

## いしかわの森づくり検討委員会（第1回）議事要旨

### < 委員長の選任について >

委員の互選により、丸山委員を委員長に選任する。

### < 検討委員会スケジュール（案）について >

（角委員）

5回の検討委員会を開催した後の対応はどうか。

（河田農林水産部長）

5回の検討委員会での検討の中で、中間報告など、一定の方向性が見えてくるのではないかと考えている。

（梶委員）

検討する中で、森林環境税の話に絡んでくると思うがいかがか。

（河田農林水産部長）

検討の過程で必要という話であれば視野に入れていくことになるが、現段階では、白紙の状態である。

### < 森林の現状について >

（角委員）

手取川の水源の森づくり協議会に携わっていたが、手取川だけでなく全県下の森林について検討することになったので、最近問題になっている間伐などの森林整備への支援を全県下に協力していただくような体制になればと思う。

（木場委員）

木材価格の低下や作業員の高齢化、特に能登地方では平成3年の台風による影響から森林所有者の経営意欲が低下しており、森林整備を進める上で官の援助が必要と思う。

（梶委員）

木材価格の低下、外材との競争の中で林業はきわめて厳しい状況にあるが、スライドで説明されたように、森林整備は非常に重要である。平成3年の台風や10年の水害による被害を考えると山の手入れについて、官としてどれだけのことができるか検討する必要がある。

（米谷委員）

スライドにより県内の森林の現状がわかったが、森づくりをしていくためには、財源を

どうするかが一番の問題である。また、県土保全の面から見れば官の力が必要であり、緊急を要する間伐も重要であるが、長期的な施策として、特に財源も含めて検討していく必要がある。

（大西委員）

私の家にも山林があるが、山の境界が分からないし、行くこともできない。近くに木造の校舎が建設されたが、節が多いことなどから外材が使われた。山を管理する人がいなくなっていく中で、共同管理のシステムを検討すればどうか。また、この委員会で、森林整備を進めるための道筋をつけられればよいと思っている。

（角委員）

県水の源水である手取川ダムが土砂でだんだん埋まっている。将来の飲料水を確保するためには、森林を守らなければならない。

（石倉委員）

検討委員会の委員に選ばれて、身近なところにある海、山、川を改めて認識しなければいけないと思っている。森林の窮地を救うためには、木をもっと使うことを考えなければいけない。また、中学校あたりで森林に関する勉強を意識的に行う必要があると思う。

（中島委員）

不在村地主の割合や高齢化の実情、森林の荒廃状況などをもう少し詳しく把握する必要がある。森づくりが必要であることは理解できると思うが、官から民という世の中の流れの中で、初回から官へに行くのはいかがか。

まず、森づくりが自分の問題であることを普及啓蒙したりし、民間でやれるだけの活性化を行う必要がある。

（角委員）

松任でもキリンビールが森林造成する計画があるが、水を利用している企業が恩返ししようとする機運になってきたことは、大切なことである。

（梶委員）

輪島市では、保育園を木造で建築したり、県産材使用住宅に補助したりしているが、外材とのコスト差をどう埋めるかは、実際に家を建てる人の選択肢の問題である。また、木材を消費しながら植栽していくことが大事である。さらに、アテに含まれるヒノキチオールは殺菌効果があり、スギだけの山は季節感が無く、（植栽）樹種を選択も考えるべきである。

（角委員）

大型建築物での木造は規制されているが、見直しを検討すべきである。

(河田農林水産部長)

木造3階建てなど規制緩和されてきているが、大型建築物等はまだ規制がある。

(有川委員)

外材が原因で林業の採算性が悪化している。県産材をどんどん使えば、森林所有者も元気が出るし、森林も活力ある山に戻っていくと考えている。

(丸山委員長)

森林の現状はだいたい把握できたが、森林整備の制度などは次回に話すのか。

(河田農林水産部長)

次回は、森林の公益的機能などについて検討していきたいと考えている。

<その他>

(丸山委員長)

森林に対する県民意識調査の内容については、詳細を事務局と詰めながら実施することとします。